

## 恒例の 鴻巣夏祭り

宿場町中山道が3キロに渡って歩行者天国となり 12 基の神輿渡御が盛大に開催されました。神輿の起源は古代中国から伝えられたようですが、天皇がお乗りになる輿が乗輿（じょうよ）、神の乗る輿が神輿（みこし）と称され、そもそも御神体『御霊代（みたましろ）』を安置した場合にのみ用いられる輿を神輿と言うようです。

神輿の内部を見た方はあまりいないと思いますが、私の町内の神輿にも御神体が入っており、江戸時代 1863 年（14 代将軍徳川家茂の時代）に造られた歴史を感じる事ができます。また、元市町（小松姫の墓所がある勝願寺付近の町内）の神輿は 13 代将軍、家定の時代に造られたようで、江戸日本橋から荒川を船で運ばれてきたそうです。時代とともに担ぎ声も『ワッショイ・ワッショイ』から『セイヤ・セイヤ』『ソーリャ・ソーリャ』など多様になりましたが、大先輩曰く、鴻巣の神輿は『ワッショイ・ワッショイ』が正式のようです。また、吹上の夏祭りはこれまで「けんか」が絶えない神輿だったようですが、今年は50年ぶりに「上組」と「下組」が競演しました。



今年は鴻神社前からの出発でした。



442年目 原馬室の祈祷獅子舞



文久3年6月の墨筆と御神体

## 荒川北縁水防訓練

猛烈な風雨の中、荒川北縁水防訓練が糠田グラウンドで開催されました。消防団員は地域の為に日頃活動していますが、風水害時は水防団員として堤防の決壊や浸水被害防止のため土嚢づくりや土嚢積みをおこないます。私も消防団員として20年目になりましたが、鴻巣地域は風水害が少ない地域事情として、水防訓練は限られた人員しか経験していないことや、水防訓練自体ほとんど開催されていない理由から、いざとゆう時に経験値の低さが露呈するのでは！と危惧の念を抱きます。

昨年関東東北豪雨のように、まさに予測不可能な事態がいつ発生するかも分かりませんので、消防団＝水防団員としての技能習得の機会を増やすべきではないかと感じました。



鴻巣・行田・熊谷市の団員



防災ヘリによる救出訓練



土のう積み訓練